県政だより 福井県

新春対談

ふるさと福井 多様性の時代を開く

福井は、全国に誇れる豊かな自然、元気な人、そして、それらを写し出す活き活きとした風景にあふれています。
平成26年の新春を迎え、西川知事と里山里海湖研究所長の進士五十八さんが、ふるさと福井の素晴らしさについて語りました。

進士　五十八さん　昭和19年京都市生まれ。平成11年から6年間、東京農業大学学長。農学博士、東京農業大学名誉教授。環境・景観など造園学の第一人者。平成19年に紫綬褒章受章。ふるさと福井景観づくり懇談会座長や福井県里山里海湖研究所長を務める。

生き物が支える環境

知事　昨年は、SATOYAMA国際会議を開催し、日本の典型的な里山里海湖である福井の素晴らしさを国内外に発信できました。

会議の成果を今後に活かすため、三方五湖の湖畔に里山里海湖研究所を設置し、所長には、日本の造園学の第一人者であり、福井県の景観活動を支援くださっている、進士五十八先生に就任いただきました。先生は子どもの頃、福井にお住まいになり、福井が大好きな方です。

進士　私の造園学は、初詣客数日本一の明治神宮の森から始まりました。この森は、100年前に大先輩達が生物多様性の考え方を取り入れて作っており、私は、この森がどのくらい生物多様性に寄与しているかを調べています。

福井の生物多様性のシンボル"コウノトリ"

SATOYAMA国際会議では、生物多様性について議論されました。1つの生き物では環境を支えられないが、10、100と増えていくと支えられる。これが生物多様性という考え方です。そして、その宝庫が、実は福井の里山里海湖なのです。

知事　福井県は、嶺北と嶺南で地形が違い、敦賀から福井に入ると、特に冬は気候が変わります。こうした地形や気候は世界的にも珍しいと思います。

そして、福井は北限・南限となる生物の種類が極めて多く、例えば、敦賀のミカンや若狭のフグは北限、大野の珍しい魚イトヨは南限なのですね。

進士　北からも南からも生き物が来るのだから、福井は自然が一番豊かと言えますね。

生き物と言えば、かつて福井で生息していた恐竜は全国的に有名ですよ。

知事　恐竜は1億数千万年前の生き物です。今は絶滅していますが、私たちの周りの生き物へと遺伝子が連綿とつながっているのかなと想像したくなります。

福井は、日本の恐竜化石の8割を発掘していますが、昨年の夏休みには、勝山の恐竜博物館を秋篠宮ご一家が見学されました。特に悠仁親王殿下が恐竜に大変興味をお持ちでして、とても嬉しく思いました。

今年は、発掘現場に野外恐竜博物館を開きますし、奥越全体を恐竜キッズランドにしたいと考えています。

また、福井の自然を守り育てる活動を広げるためには、その象徴となる生き物が大事です。例えばコウノトリ。2年前から越前市の白山地区で飼育していますが、卵を産んで、ひなが育って、ふるさと福井の大空を舞ってほしいですし、コウノトリをシンボルにした様々なプロジェクトも進めたいですね。

人間社会が元気に

進士　人の生き方や暮らし方が多様なことを生活多様性と言っています。多様な人材がいることによって、社会全体が元気になるんですね。

15歳の時「啓発録」を著した橋本左内（福井市立郷土歴史博物館所蔵）

知事　福井県は特に人材が豊富です。歴史をさかのぼると、1500年前に、福井という一地方から第26代の天皇、継体天皇が即位されました。継体天皇は、福井平野の治水を進め、越前漆器や越前和紙といった伝統産業もその時代から今日へとつながっているのです。

進士　福井の風土の中から、豊かな人材がお生まれになったのですね。

福井県知事　**西川　一誠**

知事　また、津村節子さんのご主人、吉村昭さんの随筆には、医学の大先達の杉田玄白先生、天然痘の種痘を福井で広めた笠原白翁先生などが書かれています。

福井は海に開けていて、早くから海外のことに関心があり、また幕末は非常に危機感の高い県であったため、松平春嶽公をはじめ、橋本左内先生、由利公正先生が活躍できる基盤があったのでは、と記されています。

進士　福井は、雪国で閉ざされているように見えますが、海のおかげで外に開かれていて、非常にグローバルなものの見方を持ったのですね。

進士　五十八さん

知事　福井県民は、真面目で粘り強いですし、内に秘めたものを持っています。

例えば現代で言うと、ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎先生や、明治期に英語の教育と実践をした岡倉天心先生、戦後に白川文字学を確立し、文化勲章を受賞した白川静先生や、小説家の水上勉先生、俳優の宇野重吉さんなど、皆さん、福井の県民性を体現していらっしゃる。そこで、こうした先人の優れた功績を子どもたちに知ってほしいと思い、県のこども歴史文化館で、歴史的な偉人と現在頑張っている達人をたくさん紹介しています。こういうものをもっと学校でも学ぶようになると良いと思いますが…。

ふるさとに誇りを持つ

進士　最後は景観の多様性です。

2年前、私が座長を務める懇談会で福井の代表的な風景を選びましたが、名前を付ける時、知事が「ふるさと」を加え、「福井ふるさと百景」としました。県民が生まれ育った場所を最も分かりやすく表したものが風景です。生き物が多い自然環境や、元気な暮らしぶり、眼鏡などの産業や越前和紙などの伝統工芸、焼き鯖などの食も掲載した福井ふるさと百景は、秀逸だと思っています。

知事　食と言えば、和食がユネスコの世界無形文化遺産に登録されましたね。実は、申請書に示された国内の23の例のうち、3つが県内の活動でした。

○小浜市…食育を推進
○鯖江市…給食で漆器を活用
○大野市…味覚などのボランティアを養成

進士　素晴らしいですね。おいしいそうな風景や、日々の暮らしぶりも大事な景観です。

暮らしと言えば、越前町の伝統的な民家は風格そのものですね。

知事　切り妻屋根で、白い漆喰の重厚な景色ですね。

進士　この景観の素晴らしさを県民の皆さんは意外とご存じないと思いますが、天下一品です。

こうした生き物、食べ物、様々な皆さんの活動などが表れている福井ふるさと百景はまさに決定版ですので、ぜひ、一家に一冊置いて、ふるさと愛に燃えてほしいですね。

ところで、里山里海湖研究所のある三方五湖の風景も素晴らしいですね。

知事　ええ、その1つ、水月湖の素晴らしい景観の湖底からは、5万年前までの化石や遺物などの年代を特定する世界標準の「物差し」となる年縞が発見されました。ぜひ、里山の研究と一緒に年縞の研究も進めてください。

進士　分かりました。それにしても、三方五湖は、ウナギ、シジミといった食材が豊富で、生き物が多様ですし、昔からの漁法の文化もありますね。

知事　そして、福井には、三国のような港町、今庄・熊川みたいな宿場町、小浜の三丁町や大野の城下町など、様々なタイプの伝統的な町もあります。

県民の皆さんには、こうした多様な生き物、多様な暮らし、そして、これらの多様性をもとにした県全体の多様な景観の素晴らしさを実感し、語り、広めていただきたいですね。

そして、これは里山里海湖研究所の役割であり、ご指導やアピールをお願いします。

三方湖の伝統漁法　たたき網漁

進士　イギリスには、「プライド・オブ・プレイス」、即ち、自分のふるさとにプライドを持とうという言葉があります。これからの地域間競争の激しい時代に、県民の皆さんが己をしっかり持つということが大事なのです。

生物多様性、生活多様性、景観多様性を大切にしていけば、福井は間違いなく、全国が関心を持ってくれる県になると思います。